

俳優座劇場プロデュース

畏

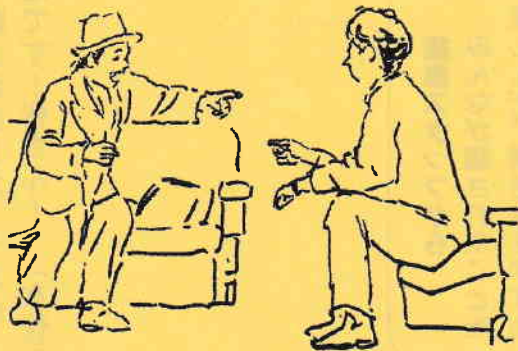
言わせて!
今日の芝居
◎五十字劇評 No.59

【六〇代】
▼みんなグルなんだ。サスペンス通を舐めちゃいけない。ラストで、天狗の鼻をポキリと折られた。よく出来た脚本だった。矛盾がなかったか調べたい、と思ったのは私だけか。
(男性)

▼どの方のせりふもはつきり聞きとれて、初めてのサスペンスを充分楽しめました。若い方にもお勧めと思います。
(女性)
▼イチオシの加藤忍の演技に脱帽。あの笑い声はアカデミー賞ものだ。役者も筋立ても申し分ないが、BCMだけは凡庸だった。
(男性)
▼二時間のサスペンスドラマを生で見ている様でした。役者さんの上手さを感じました。
(女性)
▼巧妙に仕組まれた「畏」に見事に騙されてしまった。結末にどんでん返しがあるかと予測はしていたが、ここまで完璧だとただただ驚くばかりだ。これは、脚本が良く出来ていることとテンポの良い演出、そして出演者の演技の素晴らしさによるものと思う。特に加藤忍のあの「悪い女」は凄い

と思う。登場人物が互いに騙し合い、観客もそれに巻き込まれて見事に騙されてしまう。ここまでくると、ある種の爽快感さえ感じてしまう。制作箱田さんの講演会で、この作品のテーマについて「人の命を軽んじる者は許さない」ということを挙げていたが、この衝撃の結末に「ああ、なるほど」と納得した。
(男性)
▼テンポが良くあつという間に時間が過ぎました。おもしろかったです。最後には思わぬ展開でした。舞台も良く出来ていました。
(女性)
▼まんまとダマされた。夫ダニエルの苦悩の原因がわかるラスト数分。ウソが芝居上で、役者パワー全開バトル!!
(女性)

【七〇代】
▼誰が誰を畏に？金持ちの女性と結婚して女性が失踪となると夫をまず疑うと思うのだが、ストーリーは微妙に展開。逆に山荘でダニエルのように他人に何度も何度も奥さんだと言われると自分が間違っているのか、おかしくなったのかと思っ
てしまいがちで怖いですね。





後半の神父とエリザベートが本当は刑事とはびっくり、私が騙され畏にかかったのですね。六人の俳優さんがそれぞれの役にピッタリ、違和感がなく観ていました。サスペンス・推理物は大好きな私、生で観た中では今回ののが最高でした、チョット怖い気もしました。

(女性)

▼「劇的幕切れ」とはこういう事か。終わった時、妙に納得した。演劇のおもしろさを感じた瞬間だった。

(女性)

▼久しぶりに芝居らしい芝居。六名全員が主役ですね。出番の少ないハコフグのインパクトの強さ、エリザベートの不敵な笑いが芝居をひきしめ、観る側も少しも油断出来ない。しまった！ちよつと油断した。聞きのがしたのか？最後のダニエルのせりふ「シヤモアの森の溪谷」あの言葉をどうやって言わせたのか。

▼スタッフ・キヤストともに超一流、六人の役者の成りきり。のりのり演技のテンポ良さ。ああ面白かった。最高！

▼いやーおもしろかったわ、こんな感じのお芝居は初めての様な気がします。こつ

ちがわけわからなくなりました。すごいわ。すっかりだまされました。すごい演技でした。

(女性)

▼「畏」はダニエルに対する他の五人全員のワナ、観客に対する芝居全編のワナ、二重のワナに圧倒された！見事。

▼エリザベートが、ひよっこり帰って来るのではないかと期待しながら、神父たちを悪者と信じてしまった。私自身が畏にはまるという五月例会に続いて演劇の面白さ、すごさを味わえた。満足!!

(女性)

▼台詞が分かりやすく、たっぷり楽しめた。この歳になつてまで、こんなにスツキリ騙されて良いものか？お芝居はいいね！

(女性)

▼どうなるのかと、ハラハラ・ドキドキで目が離せません。悔しいけど、すつか

り騙されました。うまかったです！皆さん！ (女性)

編集スタッフから

みんなが騙されたことを楽しんだ。舞台は生かすも殺すも観客次第というところがあるが、この芝居はどうだったのだろうか。私も含め、観客は相当イライラして進行を見守っていたはずだ。これさえも「畏」だったと明かされるまでは。しかしそんな様子も、役者たちもまた楽しんでいただけではないかという気がする。あなたはどっと思えますか。